

平成 26 年度 第 22 回大阪市市民活動推進審議会議事録

日時：平成 26 年 8 月 5 日（火）

午後 3 時 00 分～午後 4 時 50 分

場所：大阪市役所 地下 1 階 第 11 共通会議室

開会 午後 3 時 00 分

○市民活動担当課長代理 それでは定刻になりましたので、大阪市市民活動推進審議会を開催させていただきます。ご審議に入っていただくまでの間、進行を務めさせていただきます市民活動担当課長代理の谷でございます。よろしくお願いいたします。

開催に先立ちまして、当審議会 12 名の定数のうち、11 名の委員にご出席賜っておりますので、本会議は有効に成立しておりますことをご報告申し上げます。

初めに当審議会の委員に異動がございましたので、事務局よりご紹介させていただきます。平成 26 年 7 月 25 日付で新たにご就任いただきました株式会社暁金属工業代表取締役細井敦子様でございます。

○細井委員 細井でございます。よろしくお願い申し上げます。

○市民活動担当課長代理 なお、大阪市地域女性団体協議会書記の古賀和美様が平成 26 年 3 月 31 日付で一身上の都合により、ご退任されておられます。

続きまして市民局で人事異動がございましたので、ご報告させていただきます。

まず、市民局長の谷川でございます。

○市民局長 谷川でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

○市民活動担当課長代理 市民局区政支援室長の蕨野でございます。

○市民局区政支援室長 蕨野でございます。よろしくお願いいたします。

○市民活動担当課長代理 市民局区政支援室市民活動支援担当部長の安田でござい

ございます。

○市民局区政支援室市民活動支援担当部長 安田でございます。よろしくお願い申し上げます。

○市民活動担当課長代理 市民局市民活動担当課長の野寄でございます。

○市民局市民活動担当課長 野寄でございます。よろしくお願いいたします。

○市民活動担当課長代理 どうぞよろしくお願いいたします。ここで開会に当たりまして、谷川市民局長よりご挨拶申し上げます。

○市民局長 ただいま、ご紹介いただきました、改めまして市民局長の谷川でございます。どうぞよろしくお願いいたします。委員の皆様方には大変、お暑期中、そしてまたお忙しい中、お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

皆さん、ご案内のとおり、今、大阪市では市政改革プランに基づきまして地域社会づくり、大きな公共を支える活力ある地域社会というものをつくっていかうということで、マルチパートナーシップ、多様な主体が地域課題に向き合ってスクラムを組んで地域課題を解決していく、そういう枠組みでの地域社会づくりを目指しているところでございます。その一つの形としてご案内のように地域活動協議会というものを、校下等の地域単位で作りあげてきているわけでございます。

実は、今、私ども市政改革プランに基づきと申し上げましたけれども、この地域活動協議会のマルチパートナーシップの取組と申しますのは、新川会長にもいろいろとご指導いただきまして、それ以前から取り組んで参ってきたものでございまして、今の市政改革の前の「なにわルネッサンス 2011」で取組を進めていくということで活動が始まったものでございます。

この地域活動協議会、マルチパートナーシップと申しますように、地縁型の今まで非常にご活躍、ご活動をいただいた団体の皆様方、そしてテーマ型で本当に熱い思いで地域活動に取り組んでいただいている団体の皆様方、こういった皆様

方にしっかりと連携していただいて、あるいは役割分担していただいて、地域社会づくりを進めていきたいというのが、大阪市の今向いてる方向でございまして、実はこれは私ども、全国どこでも地域社会、地域課題解決の一つの解決方法ではないかな、大阪に限ったものではないのかなと思っているところでございます。

そういった意味でこの市民活動推進審議会、テーマ型、地縁型、それぞれの地域活動、市民活動をいかに進めていくか、そのために大阪市はどのような施策を打つべきなのかといったことにつきまして、いろいろと皆様方のご指導、ご助言を賜りたいと考えているところでございます。

今日は、この間、テーマ別の部会で進められた内容についてご報告をいただいでご審議いただくということでございます。大阪市の市民活動がますます活発になりますように、本当に皆様方のご助言、ご指導を賜りますようお願いを申し上げまして、簡単ではございますけれども私からのご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしく願いをいたします。

○市民活動担当課長代理　　続きまして、お手元の資料の一覧に沿って資料の確認をさせていただきます。不備がございましたら挙手をお願いいたします。

まず、「資料1　大阪市市民活動推進審議会委員名簿」、「資料2　進捗状況報告」、「資料3　活動事例」、「資料4　NPO法人に関する世論調査報告書（抜粋）」、「資料5　市民活動推進審議会及びワーキング部会の進め方について」、別冊となっております大阪市市民活動推進審議会参考資料、以上でございます。お手元にご覧いただけますでしょうか。

それではこれより新川会長の進行により審議をお願いいたします。よろしく願いいたします。

○新川会長　　それでは早速ですが、審議のほうを進めさせていただきますので、よろしく願いいたします。今日の議題、基本的には先ほどご紹介いただきました、この2月からワーキング部会でずっとご検討をいただいております市民活動をどう進めていくのかという提言を私ども来年には出さないといけないというこ

とがありまして、そのための検討として、このメンバーの中で少し選りすぐりの方々に検討していただいていたという、そういう経緯がございます。このワーキング部会からの途中段階ですがご報告をいただいて、そして皆様方のご意見をいただきながら、またワーキング部会で少し練り上げていただいて、何とか年度内ぐらいには形にしていきたいと、そんなふうに考えているところであります。なお、今後のスケジュールにつきましては、多少、全体の進捗もございまして、後ほど改めてご相談をさせていただきたいと思っておりますが、まずはワーキング部会から、ここまでのご検討ということにつきましてご紹介をいただきまして、そしてご質疑、あるいはさまざまなご意見をいただいてまいりたいと思っております。

それではワーキング部会で、ずっとこの間、取りまとめ役をお務めいただきました会長代理の早瀬さんからお話をいただけるでしょうか。よろしゅうございませうでしょうか。

○早瀬会長代理　はい。ご紹介いただきました早瀬と申します。今、経緯についてご説明がありましたように、皆さんのお手元にあるファイルの12個目の番号がついているのが「大阪市民活動推進に係る新たな提言中間報告」です。要は、今、私どもの審議会で、新たな市民活動の推進に関する提言をまとめないといけない。その大きな焦点として、今後、区域ないしは新しい行政区になるのかもしれないし、そのあたりはどうなるかわかりませんが、より地域に近づいた形での市民活動の推進について議論しようということになっております。平成17年度に「楽市楽座構想」といった形で市民活動の推進に関しての提言をまとめたものがあるわけですが、それは全市レベルでの議論であって、これを区域レベルのような身近なところで展開していく方策について議論しようということでワーキング部会、石川委員と室谷委員と山田委員と、私の4人が拝命しまして検討してきました。

具体的には実際に活発に地域ベースの活動を展開なさっておられる団体のヒア

リングを行い、その中で、特にいわゆるテーマ型と言われる「この指とまれ」の形で作られている団体と、エリア型、地縁型の地域で活動しておられる団体との連携だとか協働の展開はどのようなことがあれば進められるのか、その条件は何かということについて議論してきました。ヒアリングの件数も想定していたよりも随分と多く行って、私は全部に出向けなかったのですが、ワーキング部会のメンバーもできる限り一緒に事例のヒアリングに出向いていったことで、かなりの回数を数えました。ただ、後でまたご報告があると思いますけれども、テーマ型の市民活動団体と地縁型の市民活動団体が「うまく連携しているな」という事例はそんなに多くない。ここのところはこれからどうしていくかを考えなきゃいけないかなと思っております。その点はこれからご報告することになりますが、そのこともあって、結構これから調べていくにあたって大変だなと思ってます。今日は議案が2つあるわけですが、2つ目の議案として、スケジュールそのものについて、少し余裕を持たせたほうがいいかなと話合っております。

ともあれ内容について、お手元の「進捗状況報告」という「資料2」、ここに大体の概要をまとめております。いろいろと一緒に議論したんですが、事務局でまとめていただいたこともありまして、内容そのものについては、まず事務局からご説明をいただいた上で、少しワーキング部会メンバーが補足する形にしてはどうかなと思いますので、まず事務局の方からご説明をお願いいたします。

○市民局市民活動担当課長　市民活動担当課長の野寄です。よろしくお願いいたします。着席させていただいて説明させていただきます。

「資料2 進捗状況報告」でございます。まず、「1」として「これからの市民活動の推進と協働のあり方」ということで、大阪市の市政改革プランの中で、市民活動団体等の活動がますます活発になることで地域社会における公共の分野を担う主体が増え、さまざまな活動主体が連携、協働することで、さまざまな地域課題と取り組む自律的な地域運営の実現を目指すことを掲げています。

これを踏まえて、これからの市民活動の推進と協働の具体的なあり方について

検討するため、大阪市における市民活動団体の活動事例の調査をワーキング部会において行いました。

この調査で、活発に活動している市民活動団体は数あるけれども、テーマ型市民活動団体と地縁型市民活動団体とが連携協働している事例は、まだまだ少ないという状況が見えてきております。とりわけテーマ型市民活動団体と地縁型市民活動団体のそれぞれの持つ特性が大きく異なることが壁となっているということが見えてきた状況で、両者の連携、協働が進むと、その特性を生かし合った効果的な地域課題の解決や自律的な地域運営につながるということが予想されるというような状況になっております。

そこで調査しました事例から市民活動団体が活発に活動するためのポイントを拾い集めるとともに、協働の中でもとりわけテーマ型の団体と地縁型の団体との協働の推進に向けまして、こういったことが壁となっているのか、どのようにすれば円滑な協働が進むのかということを検討しましたが、以下の報告ということになります。

まず、初めに調査団体ですが、こちらに書かせていただいております7団体になります。別紙、「資料3」と並行してご覧いただくとよろしいかと思えます。「資料3」は7団体ありまして、これをめくっていただきますと、A4見開きで一つの団体についてレポートが書かれているような状況になっております。

一番上の「一般社団法人 office ドーナツトーク」ですが、こちらはニートや引きこもりに至る前に10代後半の若者への支援を行うということに取り組んでいる団体でございます。

2番目の「NPO法人にしよどにこネット」ですが、こちらは西淀川区内を活動地域にしており、孤立しがちな子育て層への支援を行っている団体でございます。

3つ目は「釜ヶ崎のまち再生フォーラム」で、こちらは西成区のあいりん地域を活動エリアとして、単身日雇い労働者、野宿生活者の集住地域での住民の暮ら

しを、まちづくりを通して再建することに向けて取り組む団体でございます。

4つ目は「特定非営利活動法人榎本地域活動協議会」でございますが、こちらは鶴見区にあります地域活動協議会でございます。平成24年に既にNPO法人格も取得して活発に活動している地域活動協議会ということで事例に取り上げております。

5つ目は「特定非営利活動法人エフ・エー」でございます。阿倍野区を中心に活動されている団体で、高齢者、障がい者、子育て中の方に対する住民同士の助け合いの活動に取り組む団体でございます。

6番目が「特定非営利活動法人ハートフレンド」でございます。東住吉区桑津を中心に子供の居場所づくりに取り組む団体でございます。地域活動協議会にもNPOとして参画しておられます。

最後に「特定非営利活動法人フェリスモンテ」でございます。こちらは高齢者、子供、障がい者など、誰もが心地よく暮らせるまちを目指して活動する団体で、介護保険法に基づく事業所指定も受けておられまして、地域活動協議会にも参画されている団体になります。

こういった7団体をこの間、調査しまして、その中から見えてきたことをまとめていきましたのが2ページ目以降ということになります。

「資料2」の2ページ目以降をご覧ください。「2」といたしまして、「市民活動が活発になるためのポイント」ということを表にまとめております。ポイントのまず1つ目は、「リーダーひとりですべてを抱え込まない」ということで、リーダーがいて、リーダーとは別にマネジメント人材がいたり、また、さらにそれぞれ得意分野を持つような人材がいるというような、スタッフの役割分担がうまくいっておりバランスがとれているということが、活発に活動していくには非常に重要だということが見えてきております。

2つ目のポイントとしましては、「活動の目的が具体的」であるということで、課題に対する取組の必要性を実感し、「放っておけない」「なんとかしたい」とい

う思いで活動を始めているために、どんなことをしたいかという目的が非常に具体的であるということが、活発に活動している市民活動団体の特色であるといえます。

例えば、下に記載しておりますが、「にしよどにこネット」では、「自分自身が、子育てにおける孤立や不安を実感し、なんとかしたいと感じた」ということから孤立しがちな子育て層への支援を目的とし、そして、この目的を皆さんで共有されているとのことでした。

また、一番下の「フェリスモンテ」でしたら、代表者の方が親御さんの介護をされておられまして、住みなれた地域で最後まで心地よく暮らしたいと実感して、そのためになんとかしたいという思いから活動を始められたとのことでした。それを「おたっしゃ」というわかりやすい言葉で表現し共有されているといった状況になっております。

次に3つ目のポイントでございますが、「ニーズを見逃さず受け止めて活動を展開している」ということで、目的をはっきりさせたいうえで対象者のニーズをよく見て活動を展開しておられ、対象者の課題解決に直結しているという特徴がみられます。

例えば、一番上の「office ドーナツトーク」でしたら、ニートや引きこもり等の就労困難者になる一歩手前のハイティーンの年代を対象とした支援がないと感じたことから活動を展開しているとのことでした。

3ページ目のほうに移りまして、こちらの「ハートフレンド」について見ていただきますと、「つどいの広場の利用者さんの声、子どものでらこやの保護者の声、子どもたちの声をしっかりと聞けるようにし、話しやすい関係や雰囲気大切にしている」ということで、こういったことから課題を拾い上げることに努めていらっしゃるというコメントをいただいております。

続きまして、「人材を集めるポイント」なんですけれども、自分のこと、すなわち自分にも共通の課題だと感じられたら人は集まってくるということ、あと、や

りたい人を集める、あとミッションとビジョンなど、活動の目的や情報をわかりやすく公開することが重要であるということ、あと、サービスを受ける人とサービスを提供する人は別の人ではないという考えを持つということがポイントだということが見えてきております。

例えば上から2つ目の「にしよどにこネット」ですと、利用者を当事者意識で受けとめるサービスが利用者の方に届きまして、利用者自身が後にスタッフになるという循環がうまく生かされているような状況になっております。子育てが落ちついてきたら、じゃ、今度はスタッフになるわというような循環がなされています。

また、「榎本地域活動協議会」ですと、やりたい人をすかさず勧誘する。イベント参加者アンケート等にやってみたいということを書いてらっしゃるような声がありましたら、すかさず勧誘してスタッフになっていただいたというような事例がございます。

また、「ハートフレンド」ですと、目的とお手伝いしてほしい内容と、その効果を丁寧に伝えるようにしているということで、わかりやすく情報を広げているところがポイントになっていると考えられます。

次の4ページのほうに移りまして、「取組を展開するポイント」なんですけども、そのまず1つ目が「ミッションとビジョンを持ち続けて、これに沿った取組・事業を展開する」ということが大切だということが見えてきました。

そこで「おもしろい活動をする人の特徴」を考えてみますと、「信念」、見方によっては「思い込み」になるんですけども、と、「自負」、ほかに誰がするのだという見方によっては「思い上がり」みたいなものがある。しかし、でも、柔軟性も持っていらっしゃる、そんな方がミッション、ビジョンを持ち続けて取組を展開していくということがポイントのひとつになっています。

例えば、上から3つ目の「釜ヶ崎のまち再生フォーラム」ですが、「いち早くワイドなビジョンを持ち、それを絵にして広く分かりやすく共有できた。それがあ

ったので、信念を持って根気よく続けて来れた」というようなコメントをいただいております。

中ほどの「エフ・エー」ですが、「一人ひとりが『面白い！いっちょやったるか〜』みたいな取組が結局は長続きして、周りを巻き込み広がる」というようなことを調査を通じて聞いてきております。

次のポイントですけれども、「できることをできる人がやっていく」ということがやっぱり重要であると。上から4つ目の「榎本地域活動協議会」ですが、「たとえ少人数でもまずはやってみて、その取組の様子や成果が見えてくれば、賛同者は後からついてくると考えている」と。

あと「ハートフレンド」ですと、『『できる人ができる時にできる事をしよう』がルールです、と。あと自分たちにはない専門性を持ったほかの団体に協力していただくなど、『助けられ上手』になることも大切だと考えている』ということで、できる人が無理せずできることをやっていくことが重要であると。

そして5ページ目のほうに移りまして、「活動をオープンにして展開する」ということ、すなわち「社会への発信をしっかりと行う」ということが非常に重要であると。どこの団体もやっぱりホームページやブログなどによる発信につきましては、力を入れてらっしゃいます。

特に、誰にでも参加できるオープンの中で発信しながら活動を展開しているというところが、ここでいうと「釜ヶ崎のまち再生フォーラム」と「榎本地域活動協議会」ですね。「榎本地域活動協議会」のほうは「あいより」と名づけた井戸端会議で、誰でも参加できるようにオープンの中を設定していっているということで、それが効果的な活動に結びついているということが見えてきたような状態です。

こういった活動が活発になるためのポイントがあるんですけれども、このポイントを踏まえた上で、「3」の「テーマ型市民活動団体と地縁型市民活動団体との協働の推進に向けて」ということですが、課題対応の専門性を持つテーマ

マ型市民活動団体と、地域に根差した活動を行っている地縁型市民活動団体とが、問題意識を共有できる分野で連携、協働を進めることは地域課題の解決に向けて有意義であると考えられます。どのようにすれば円滑な協働が進むかというのを、以下、検討しております。

(1) としまして、まず、「お互いのことをもっと知る必要がある」のではないかということを、一つポイントとして挙げております。テーマ型団体と地縁型団体の両者の持つ特性が大きく異なるため、お互いをよく知らないために見えない壁ができていることが考えられます。お互いの活動の特性を理解し合いますと、よいところを持ち寄ってウィンウィンの関係を築きながら協働して取り組める部分が見えてくると考えています。

「市民活動楽市楽座を目指して」の提言の中で、このテーマ型の団体と地縁型の団体、行政について、次のような表でまとめております。それを抜粋したものが、6 ページの表になります。

こちらでいきますと、「テーマ型市民活動団体」の「活動領域」は「特定のテーマに特化した活動」であると、これに対しまして「地縁型市民活動団体」は「居住地に関わる共通課題全般」が活動領域であると、あと「構成員」の部分而言いますと、テーマ型団体のほうは有志が参加すると、それは地域に関係なしに集まってくる。地縁型の団体のほうは基本的には地域の住民参加が基本になるということが、かなり違う面ということになります。ほかにもいろいろあるんですけども、この比較を踏まえた上で今回の活動事例の調査から見えてきたことを、以下、まとめております。

まず、「活動の起点」から見ると、テーマ型市民活動団体は特定の社会的課題を解決するために有志で集まって活動を始めることから、自ら興味を持った課題に自ら行動を起こして取り組む傾向にあるということ。一方、地縁型の団体は、取り組まざるを得ない地域固有の課題を解決するために住民が集まって活動を始めることから、自らの興味や発意にかかわらず取組に参加することも少ないと言え

るのではないかということがまず1点です。

次に「活動の形態」の違いなんですが、市民活動団体の活動形態はさまざまな形で整理できますが、その一つとして中核的なスタッフの違いに着眼すると「有償スタッフ中心型」と「無償スタッフ中心型」の2つの志向で大まかに整理できるのではないかということを考えております。

ここでいう「有償スタッフ中心型」とは、専門的、継続的にサービスを提供するために、専従職員を雇用し活動を事業として展開してくるもので、受益者負担やスポンサーを得るなどして収支のバランスをとりながら事業を展開しようとするタイプの活動でございます。一方、「無償スタッフ中心型」とは、活動を有志のボランティアの力で進めるもので、広く活動にかかわる方々の理解と参加を得ながら進めていくタイプの活動をいいます。もちろん、専従職員を確保しながら、多くのボランティアが参画して事業を進めている団体も数多くありますので、これらの整理は「理念型」的なものでございます。

ともあれ、この整理でいいますと、テーマ型の団体には「有償スタッフ中心型」の形態をとるものが比較的多く、地縁型団体の場合は、その大半が「無償スタッフ中心型」の形態をとっていると言えると思います。

7ページに入りまして、次にそれぞれの「活動の課題」について考えますと、活動の課題といたしましては「担い手不足」や「資金不足」など、テーマ型の団体も地縁型の団体もおおむね同じような課題が挙げられますが、活動の起点や活動の形態の違いから同じように見えても悩みの意味合いが少しずつ異なっていると考えられます。

例えば、「担い手不足」で求める担い手も、テーマ型市民活動団体の場合は取組に強く共感し、専従者はもとよりボランティアの場合も能動的に団体の活動に加わるタイプの担い手を求める傾向にあるのではないかと。あと地縁型の団体の場合は、その取組が地域に住んでいらっしゃる住民の責務が一つであるという理解のもとに活動に加わるタイプの担い手を求める傾向があると言えるのではないかと

と考えております。

また、資金不足につきましても、テーマ型市民活動団体で専従職員を確保している場合、人件費確保のため多額の資金を安定的に確保することが焦点の一つとなるわけですが、地縁型団体の場合は比較的少額の活動資金による活動が展開されており、一定の公的補助など得られれば、前述したように活動は有志のボランティアが進めていくことが多いことから、安定的に活動をすることができる団体も少なくないと言えるのではないかと思います。

そういった違いがありますが、いろんな市民の方の自主的な取組への意識といたしまして、内閣府が昨年行いましたNPO法人に関する20歳以上の方3,000人を無作為調査した世論調査がございます。この中で「市民の自主的な取組への意識」についての調査で、「社会のニーズや課題に対して、市民自らが主体的に集まって取組むことは大切だと思いますか」というような質問につきまして、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」という方と合わせまして「91.6%」の方が「そう思う」というお答えをなされまして、大多数を占めたというような結果が出ております。このことからテーマ型の団体と地縁型の団体とは、それぞれの持つ特性は異なっていますが、取組への意識、社会の課題について何とかしたいという意識については共通していると言えるのではないかと思います。

7ページの下のところですが、このことからテーマ型の団体と地縁型の市民活動団体とは団体の性質が異なっていること、また、性質の違いから同じように見えても、活動の上で抱えている課題や悩みの意味合いが少しずつ異なっていることをお互いに理解し尊重しあうことが、連携、協働に向けて必要であると言えるのではないかと思います。

そこで8ページ「連携・協働のポイント」です。今、現在の調査の中から拾い上げることができたポイントでございます。

まず、1点目が「地縁型市民活動団体と連携するポイント」です。つなぎ役が入れば地域との連携が促進されるということ、地域への情報提供をこまめに行い、

活動の目的及び内容を知ってもらうことがNPO、テーマ型の団体のほうに求められてることではないかということ、あと地域行事等への協力を積極的に行うということも大切であると。あと、それぞれの持つ特性を生かし合うことが効果的な地域課題の解決につながることから、お互いのよいところに着目しウィンウィンの関係になることを心がけることが重要であるということが見えてきております。

幾つか例をご説明しますと、「釜ヶ崎のまち再生フォーラム」でいいますと、「どんな団体・個人に対しても中立的立場をとり、ニュートラルに構えて、自分たちはコーディネート役に徹する。各団体の地域の中での役割をきちんと評価し、どんな団体も地域資源として支えあう関係になってもらえるよう、根気よく連携を進めている」ということをコメントしていただいております。

また、「ハートフレンド」は代表の方が地域住民であり、ご自身がつなぎ役になっておられます。他にも、「ハートフレンド」が役に立てるということを一番に考えていらっしゃるというようなことを言っていただいております。

一番下の「フェリスモンテ」でいいますと、「地域から頼まれたことは断らない」と、こういったようなポイントがあるということ調査の中でいただいております。

次に行政とテーマ型の団体が連携するポイントでございますが、活動の目的と行政の事業目的とがウィンウィンになることを心がけるということ、行政の補助金や委託事業を活用する際には特に行政との情報交換を丁寧に行いつつも、自分たちの本来の目的を見失わないようにするということがポイントであると考えられます。

まず、「office ドーナツトーク」ですが、行政の委託事業を受託することで、自分たちのミッションを実現できていると、あと行政とはミーティングを丁寧に行うように心がけていると。

次に、「にしよどにこネット」でしたら、区役所の中で子育ての場所の事業を受

けていますので、その事業を実施していることで区役所に利用者の方をつなぐことができるために、利用者からも難しい相談も応じやすくなったというウィンウィンの関係になっているということです。

そして少し下にいきまして「ハートフレンド」でいいますと、「委託事業に頼り過ぎず自主事業を増やすように心掛けている」と。でも、その上で「できることはしっかりと行い、その上でできないことを相談し行政に協力していただく」、けれども、「あまりねだらないように」というようなことがポイントと聞いております。

雑ばくですが、以上でございます。よろしく申し上げます。

○早瀬会長代理　　以上のように、中間報告というよりも進捗状況の報告ということで、進捗状況報告という名前にしました。このワーキング部会を前回の審議会の後4回やっているんですが、このヒアリングにもできる限りメンバーが行っているので都合11回やっているというかなりハードな状況で、こんなはずではなかったという感じではありました。

その中で、だから具体的にこうするんだということではないんですが、いろんな団体の話を伺ってきて「なるほどな」と思うことがありました。

例えば「榎本地域活動協議会」というのは、非常におもしろい地域活動をされていて、その上、会合の議事録的なものをツイッターでどんどん出しているんです。だから、リアルタイムで会合の様子がわかるという、すごくおもしろい形で運営なさっているんです。ただし、いわゆるテーマ型の市民活動団体がそこに入っておられるということではなく、この団体自体は非常にボランタリーに運営されているなという感じを強くうけました。

その点でいうと「ハートフレンド」は地域活動協議会にも入っておられるから地縁型とテーマ型が連携している例でしたが、なかなかそういうような例がなかったということなんです。

それから、4ページ目のところの一番上のところにあった「おもしろい活動を

する人の特徴」という何か断定めいた表現があります。これは奈良県でたんぽぽの家という団体の代表をされている播磨靖夫さんが、この「おもしろい人は思い込みと思い上がり強いんだ」という冗談めいたことを言っておられて、一見人を馬鹿にしてるように受け止められるかもしれませんが、要は自負がないとなかなか前に進めないということをおられる。別に茶化して言っているわけではなく、そういう自負心を持って頑張っていることをちゃんと評価しようという意味なので、この点を少し補足しておきます。

ワーキング部会の石川さん、山田さんも、ぜひ、コメントをお願いします。

○石川委員 非常に、こんなはずではなかったという。でも、そこまでヒアリングに参加できなくて申し訳ない。

○早瀬会長代理 全部は、なかなか行けなかったですからね。

○石川委員 はい、何回か参加させていただいていたんですが、まず、このヒアリングの団体をピックアップするのもかなり苦労しました。ですので、実はそこも1つの課題なんですよ。やはり一定の事業規模、また協働の力量を持った団体が、これ大阪市の審議会ですね、大阪市の期待しているほどは、まだまだないというのが、やはり残念ながら実情なのかなともいう気づきに改めてなりました。挙げてみると、「え、結局、これしかないのか」という状況は、そもそもの大きな課題ではないかということと、少しこの中で議論はしてるんですけども盛り込めなかったところで言います。

団体の数は増えてるんですけど、生まれてきた団体がこの協働力、事業力を持ったところまでなかなかステップアップしきれていないという状況もありまして。ただ、今回ヒアリングさせていただいた団体は、いろんな過程の中でそういった力量を身につけてこられたと。このヒアリングの資料も非常に工夫して作っていただいております、この沿革のところも実はちょっと下線を引いてる部分はその工夫かなとも思うんですが、やはりステップアップの時期、単純にどんどん大きくなっていくというよりかは、あるきっかけというところがあって、そこから

ステップアップしていくと。

まず小さな子育て団体から始まっているんだけど、例えば地域の場を開くというところで試練があり、そこを協働の力で乗り越えていったり、よりエリアを広げていったりというようなところで、それぞれの団体が大きくなるに当たって協働の機会をプラスに生かしてきたと。

ちょっとこれはヒアリング以外のところで話を伺ったんですが、例えば「釜ヶ崎のまち再生フォーラム」では、やはり釜ヶ崎のまちづくりで何度もピンチが訪れてきたんだけど、そのピンチのときにチャンスに変えると、そういったときにゴールを決めていくということによって、つながる力、事業力というのを養っていったというようなこともおっしゃっておられていますので、それぞれの団体がそういう機会をしっかりと生かしてきている。ここも推進をしていく上での、また協働が力になっていく上でのポイントかなと感じております。

それとあともう一つ、ここに出てないところで言いますと、このヒアリングの過程の中で、例えば「office ドーナツトーク」の代表の方が、正確に言うと行政の担当部局及び担当者と細やかにミーティングというか多くの機会を持っているというふうにおっしゃってたんですね。ですからここが、まず、ざっくり行政ではなくて、それぞれの担当部局と丁寧にコミュニケーションすることが大切であるということと、それから何げなく「向こうの何々部局にも話を聞きはったらどうですか」というふうにおっしゃられてたんですね。要は、協働ということは市民団体だけにヒアリングをするのではなくて、やはりそれを受けている向こうの行政担当者にも聞かないと、やはり正確に協働の質というのは見れないのかな。また「ハートフレンド」にも、いい担当者の方との出会いというところもあったので、そういった細やかなところでいろいろ学ばせていただきました。

ちょっと量が多いので入り切れてないところも、補足的に。意見といいますか感想でございます。

○新川会長      ありがとうございます。

○早瀬会長代理 山田さん、どうぞ。

○山田委員 テーマ型市民活動団体と地域型市民活動団体の協働の推進に向けて、まず、調査しようという話になったのも、区レベルでの協働体制を、どのように進めていくかということで、今の団体を選んで調査させていただきました。現状の調査というものは、ある程度できたと思います。

逆に言うところの矢印になっている、どういう解決策があるのかというところが、まだまだ未成熟な状態です。故に進捗状況と申し上げているところです。

その事を踏まえた上で、これからテーマごとのマルチパートナーシップをどのように進めていったらいいかという話もあります。その事例ももう少し調査させていただきながら、この後の提言につなげていく形になるのかなと思っております。今日はその辺を踏まえて、委員の皆様からご意見をいただきたいと思っておりますのでよろしくお願いします。

○新川会長 どうもありがとうございました。ただいまワーキング部会から、この春以降中間報告を受けて最終的提言に向けてのワーキングをまたやっていたいでいるんですが、ご報告にもありましたように、まず、市民活動がどんなふうに進んでいるのか、その中で特に私たちが協働とか、あるいはマルチパートナーシップという言葉もありましたけれども、そうした観点から地域の中でどんな新しい活動が生まれ始めているのかということに着目をして調べてきていただきました。各団体それぞれがどんな思いで、そしてどんな活動を通じてそれぞれ活発に活動を展開されてこられたのか、いろんな側面から一定、現状の分析をしていただき、その中での課題のようなどころまでは多少見えたかなという感じはしております。ですが、ここから先、じゃ、これをどんな方向に持っていこうかというのは、これから改めて議論をしないとイケません。さらに言えばここまでの段階では、ごく限られた幾つかの比較的力量のある団体の活動の事例ということが中心になってございます。また、カウンターパートナーであります行政の話、あるいは同じ地域の中で関わっているさまざまな団体があるはずなんです、そ

ういうところの話、さらに言えば民間企業、事業者の方との関わりや、そうしたところもまだまだこれから考えていかないといけないところもたくさんあるかというふうに思っております。

まずはこの2月以来ワーキング部会で調査をしていただき、現時点での市民活動の推進上の幾つかの課題が明らかになったといったところで、各委員から調査内容についてのご質問や、合わせてご意見をいただきたいと思いますと思っております。それからもう一つは、まだ不足をしているところがあると思しますので、この後も、もう少しちゃんと調べて、そして解決の方向を見出していかないといけないということがございますので、そこのところに向けてのご議論もぜひ、いろいろといただければと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

限られた時間でございますけど、どうぞ積極的に、そしてご自由にご発言をいただければと思っております。

どの部分からでも結構です。よろしくお願いいたします。

はい、では石田先生どうぞ。

○石田委員 さっきちょっと出てきましたけれど、どうしてこの7団体を選んだのかということがすごく大きなポイントだと思います。結局、地域とうまくやってるテーマ型の団体という枠組みだったらすごくわかるんですけども、「office ドーナツトーク」とかはそうじゃないだろうし、「榎本地域活動協議会」はもともと地域団体だろうし、それから「釜ヶ崎のまち再生フォーラム」でいえば地域の中でやっているけれども、多少、地域の団体はきつとうまくいっていないだろうし、だからこれは7つ選んだけども後悔してる団体がなんぼかあるのか、いや、これでよかったのか、その選び方とそこだけちょっと。

○徳谷委員 ずきずきします。

○新川会長 選ばれた側はね。はい、それでは早瀬さんから少し。

○早瀬会長代理 基本は、テーマ型の団体と地縁型の団体という一般的にそういう言い方をしますけれど、連携がいいタイプの団体をヒアリング先として選ば

うというのがベースだったんですね。「office ドーナツトーク」は地縁というか地元の学校との連携はあるので、そこである種の知見が得られるかなと思って選びました。それから「釜ヶ崎のまち再生フォーラム」も、結構地域をつないでいる団体だと感じました。

○石田委員 地域内のテーマ型がつながっているわけで。

○早瀬会長代理 いや、自治会も加わってはりますから、それで選びました。次に「榎本地域活動協議会」、この後、「緑・ふれあいの家」のほうもヒアリングに行こうと思っているんですが、このような非常にアクティブな地域活動協議会は、どちらにしてもちゃんとお話を伺っておかないといけないなと思って選びました。他のワーキング委員の方、何か補足はありますか。

○石川委員 それぞれの委員で。

○早瀬会長代理 そう、みんなが候補団体を出し合いましたからね。

○石川委員 ちょっとずつ違うかもしれませんが、「office ドーナツトーク」と「釜ヶ崎のまち再生フォーラム」に関しては私自身が推薦したので少し挙げると、まず「office ドーナツトーク」の方は、新しい市民活動のテーマといったところをどういうふうに今の団体が捉えているのか、実は最初、「NPO法人淡路プラッツ」のほうに古参の団体としてはあるんですが、何を地域と見るのかというのが難しいところなんですけども、特に行政との協働の活動で新しい形で事業を展開している、非常に将来というか可能性というか、これから注目される団体という新しいテーマが出てるところで選んだというところがあります。また、学校という場をどういうふうにつなぎの場として見ていくかということに、地域活動協議会でも非常に重要な点ではないかと感じておりますので、そういったところでも非常に着目すべきだということ。

それと必ずしも市民活動というのは、絶対、地縁型団体とつながらないといけないというわけでもない発想なんですね。ただミッションを進めていくと、その必要性は出てくるだろうというところで、必ずしもそこに限定して考える必要

はないというふうに考えています。もともとの中間報告のところでも区域内と区域外とに分けて一つ考えようというような考え方を出していたと思いますので、そういったところでも挙げている。逆に言えば区域外の分が余りにも今回少ない、逆には少なすぎたところが、そこが問題かなと実はちょっと思っております。

「釜ヶ崎のまち再生フォーラム」に関していうと、まちもいろんなまちがありますが、やはり大阪の特徴的なエリアであるのは間違いなく、そういったエリアで長年活動しているものの中に大きな知恵があるのではないかというふうな方針で挙げました。

要は大阪市の中のいろんなバリエーションをピックアップしようということもあったのですが、結果としては地域との新たなつながり方の知恵もむしろあったのではないかというふうには感じております。

○早瀬会長代理 資料の活動事例の表の6ページのところに、「釜ヶ崎のまち再生フォーラム」がありますけど、「6」の「活動における連携の状況」で、今、「(仮称)萩之茶屋まちづくり拡大会議」という、ここは正式名称が「(仮称)萩之茶屋まちづくり拡大会議」となっている。「仮称」にしておくことに実は知恵があるというものなんですけどね。こういうふうな形で連合町会との連携も始まったりして、この点はおもしろいなと思っております。

○新川会長 石田先生、よろしいですか。

○石田委員 続けていいですか。

○新川会長 はい。

○石田委員 この連携ということで考えたら、テーマ型のところは自分たちにとってプラスになるところとは何でもつながっていかうということで、行政であろうと、学校であろうと、地域であろうと、というようなのがあられるかもしれない。

難しいのは地縁型のほうがテーマ型と余り連携したくないというので、うまくいっていない例が多いという感じがしてるんですけども、その辺の地域側からの視点というのは、ここ全然出てこなかったですけども、今後、そっちにもぜひ

行ってもらったらしいなと思います。

○早瀬会長代理　そうですね。そういうことですね。

○新川会長　その点では、今回対象になったのは、どちらかというと活発に活動しておられる団体中心で、実はよちよち歩きというか問題をたくさん抱えておられるようなところ、それぞれあるんですけども、なかなかそういうこれからどうしようかというところは出てこなかった。それは地域の側も大きな力のある地域活動協議会が出てきていますけれども、実際にそれぞれの町会やあるいはそれぞれの地域活動協議会がどういうふうに課題を抱えておられるかと考えると、これは今後のやっぱり課題として大きいかなと思っております。ですから、このあたりは、また、ぜひ、もう少しワーキング部会に汗をかいていただかないといけなかなというふうに思っているところです。どうぞ。

○石田委員　汗かいてもらうついでにエリアの考え方、さっき広域のおっしゃったけども、大阪市域全体というつながりもあるやろうし、区レベルで考えてはるところもあるだろうし、地域活動協議会レベルで考えてはるところもあるだろうし、地域の捉え方というのはそれぞれですよ。だから、もうちょっとたくさんさんの団体で調査していただいた中で、それぞれごとに何かまとめないと、バラエティーに飛んだのがおもしろいという中で一括してはるのかなと。何となく釈然としない分があるのかなという感じですよ。

○早瀬会長代理　そうですね。どうぞ。

○山田委員　先ほど早瀬委員のご説明にもありましたが、参考資料の「中間報告」12個目の番号がついているところを見ていただきたいのですが、一応、そこは踏まえています。なかなかそこまでたどり着かなかったというのが現状なので。先ほど言われていた区からも話を聞く必要もあるし、逆に地縁団体のほうからも話を聞かないといけないのじゃないかという話はワーキング部会でも出ていました。まだ進捗報告というのは、まさしくそういう意味です。中間報告ではそこまで含まれた形になっています。中間報告では、視野を広げています。今ま

でのワーキングの流れでいきますと、市レベルの話がほとんど出なかった現状があったと思いますので、市レベルの話も提言では出していないといけないと思っております。おっしゃるとおりだと思います。

○早瀬会長代理　　そうです。徳谷委員、ヒアリングを受けた当事者としてどうぞ。

○徳谷委員　　ピックアップしていただきありがとうございます。本当に、ワーキングの先生方、ありがとうございます。11回もしていただいて。ヒアリングを聞いたときには、私、もう、びっくり。自分のところがヒアリングされるという、すごい緊張したんですけど、このいろんなポイントが、いろんな団体が答えているのを載せていただいて、めっちゃ参考になりました。何か似ているとか、そういうやり方もあるんだとか。すみません、こんなん活用して申し訳ないんですけど、例えば地域とのところで、みんなが思っている「地域からの頼まれごとは断らない」はようわかるなと思って。断ったらえらいこっちゃみたいのところとか、嫌じゃなくて、やっぱり、それを大事にしているというか。で、うちも私だけじゃなくて理事の5人ぐらいが、各町会の女性副部長にまで出世しているんです。で、民生委員も3人もいるという、理事の中で。それはいいか悪いかわからないんですけど、そういうふうに山田先生、うちはテーマ型なんですか、地縁型なんですか、わからなくなって。よく区別を言われるんですけど、自分とかが一体何型なのかがよく私たちもわかってないという。

○山田委員　　複合型でいいのでは。

○徳谷委員　　いいかどうかは別にして、そういう地域のことを多分、皆さん、「フェリスモンテ」さんも、「にしよどにこネット」さんもよく存じあげてるんですけれど、地域はやっぱり大切に思う。嫌々じゃなくて、ああ、みんな大切に思っってはんねんかって、この表を見て思いまして。すごく、行政と連携するポイントなんかでも、そうか、そういうところを大事にせなあかんねんとか。すみません、私たちの参考書になってしまったような。非常に、ほかの団体さんの創意

工夫を見せていただくことで、「榎本地域活動協議会」さんなんかもフェイスブックで時々読ませていただくんですが、すばらしいなって。一度、見学というか、お話を聞きたいなと思うのがあって、そんな機会があればいいなとか。「釜ヶ崎のまち再生フォーラム」さんも私はお会いしたことないんですけど、何かそんなふうに出会いの場があったらいいなと。一人で行ってもなかなかあれだから行きたいなとか、感想で申し訳ないですけど思いました。ありがとうございました。

○新川会長      ありがとうございました。

○田中冬一郎委員      公募委員の田中です。話の流れが少しずれてしまうかもしれないんですけども3点思ったことがあります。

資料なんですけれども非常にわかりやすいなと、非常におしゃれで顔が見えてくるというか、すごくNPOの活動に興味がある人間なので非常に参考にしています。ちょっと気になったことが2点ありまして、事業の概要とか、職業柄ややっぱり事業申請の担当しているような立場をやっているんですけども、聞いているとどれがコア事業で、もしくは助成とかを得ずに自主事業でやっているのかみたいな、そういうところがちょっとわかりにくいなと思っていて、やはりそれなりの規模だから非常にしっかりした団体、僕の知っている団体も何個かあるんですけど、ぱっと見たときに、ちょっとわかりにくいなと思ったのが一つあります。

それと2つ目は今、地域型とテーマ型ということで、話が進んで、僕の感覚でいくと、やっぱりテーマと地域とは別に、それこそ、その間をつなぐみたいな中間支援みたいなNPOというのも結構増えているような気がするので、ヒアリング対象で、そういう、それはプラットフォーム型のNPOがあればいいなと思ったのが感想としてあります。あと、最後の1点なんですけれども、資料とは別なんですけど、これはちょっと市民としての多分感覚なんだと思うんですけど、行政との連携というところで、外から見たりとか周りのサラリーマンが多いとことか、周りにいてるんですけど、やはり窓口が見えないというか、行政と連携しろと言われても誰に行ったらいいんだみたいな、そういうようなのがあると思うん

ですよ。だからそういったところをわかりやすく何かしら言っていただけたら、先ほど、ちょっとそういう話もあったかと思うんですが、あれば何か連携というのが具体的に見えてくるんですけど、行政と連携という、行政という言葉を使うことによって逆にぼやけてるんじゃないかなという感覚が僕にはあります。

○早瀬会長代理     ありがとうございます。

○新川会長     ありがとうございます。いいですか。

○早瀬会長代理     そのとおりだと思います。いわゆる中間支援組織にもいろいろなタイプの組織がありますが、今、地域活動協議会のサポートをしている中間支援組織の皆さんとのヒアリングは、また今度やろうかと思っておりますし、おっしゃったようにいろいろなところにヒアリングしなければいけないと思います。今の窓口の話もおっしゃるとおりだと思いますので、事業の概要のことなど、少し工夫してもう少しわかりやすいようにしたいと思います。

○新川会長     コア事業のところ、それぞれについて簡単に何がコアかというのを、ざっとでおわかりになる範囲でいいですが、お話しいただけますか。

○早瀬会長代理     これは事務局がうまく説明できるのでは。

○市民局市民活動担当課長     ではご説明申し上げます。まず最初に、「office ドーナツトーク」なんです、こちらのほうは府立高校に「となりカフェ」というのをつくっているということで、それが一番最初で、そこがコアだと考えたらいいと思います。3ページ目のところで「3つのカフェプロジェクト」ということで、「となりカフェ」というのを府立高校の中につくっている、ハイティーンの方の居場所づくりのための事業です。

次、「にしよどにこネット」の場合は、「に～よんステーション」ということで、5ページのところの「ピックアップ事業」ということで、西淀川区役所1階の食堂跡スペースを子育て支援を中心とする交流スペースとして改装して自由来館施設として開所されているということで、ここで随時、相談とか交流ができるようになっておりまして、西淀川区役所のほうから委託料が大体700万円ぐらい年間

出ているというような状況になっております。

次の「釜ヶ崎のまち再生フォーラム」は、こちらは会議体みたいなところですので、直接、事業をやる所ではないんですが、西成特区構想等から「ピックアップ事業」として挙げさせていただいたのが、「あいりん地域環境整備事業」、7ページですね。こちらは西成区から委託をしている事業になります。この事業を受けるために、この7ページの中ほどなんですけれども、「釜ヶ崎のまち再生フォーラム」をきっかけというか、こちらを母体といたしまして地域の町会や社会福祉法人、NPO法人等の関係者によって「萩之茶屋地域周辺まちづくり合同会社」という法人を平成25年10月に設立しています。これがあって、そこと大阪市が特名随意契約しますよということで、今年度4月から、ごみの不法投棄に係る巡回、啓発、調査業務を実施して不法投棄ごみの発生を抑制するとともに、清掃業務を実施して不法投棄ごみの除去を行う。ただ、でも、それだけではなく、それを野宿生活者の方々にやってもらうことによって、雇用創出、自立支援を行っている。これに西成区は1億6,000万円をかけている。コミュニティビジネスと言えらると思います。こういったことが代表例として挙げられると思います。

次、「榎本地域活動協議会」、こちらは地域活動協議会のほうですが、特にここが力を入れてるというのが、もう地域活動協議会というのは形成されるずっと以前で、2003年ぐらいから放出の駅周辺の放置自転車をなくしたいということで地域の方が立ち上がりまして。で、最初は非常に少人数でされてたんですけども、地域の方が協力するようになり、周辺の企業の方が協力するようになりということで、活動がどんどん展開していったような状況で、放置自転車対策や青色パトロール事業など、いろいろな取組を展開しています。

でも、特にここで、一番注目すべきは9ページの「えのもと井戸端会議あいより」ですね。こちらのほうで、「あいより」と呼んでらっしゃるんですが井戸端会議を月に1回されておまして、そちらはどなたでも参加できるということでフリートークの中から意見を出し合ったりとかするんですが、そこから生まれたア

アイデアで事業が展開していったら、皆さんの意思の合意形成がなされてるということで、この「あいより」自体にもワーキング部会のメンバーも参加するなどして、体験していただいております。

あと、この「ふれあいまつり」というのを年に1回してるんですが、そちらでこの地域活動協議会はこんなことをしてるんだというのを地域の皆さんなどに知っていただく場となっております。これを開催するのに地域の企業とか学校とかにも協力もいただいております、発信と交流とを一緒に行っているような場になっていると思います。

次、「エフ・エー」なんですけれども、こちらは地域の中で住民同士が助け合うということを目指している団体でございます。特徴といたしまして「沿革」のところにあるんですが、2007年に『「エフ・エーさろん」開所』とあるんですけれども、自分たちで物件を買って拠点を得ています。その拠点を持ったことによって一気に認知度も上がって事業活動がやりやすくなっているということです。

その中で特に事業としては「ふれあい活動」ということで、助け合いを有償ボランティアでできるような仕組みをつくっており、また「エフ・エーさろん」では、おしゃべりなどして交流していただく場を提供しているんですけれども、下のイメージ図を見ていただきましたら、「ふれあい活動」のほうは「エフ・エー」に申し込んでいただいてボランティアと助けてほしい方とを結びつけて、助け合いをしているんですが、「エフ・エーさろん」は自然な交流の中で、「体の調子が悪いの」、「じゃ、買い物手伝ってあげようか」という会話が自然と生まれていく、自分たちの団体を介さずに生まれていくような、そういうことが行われているというようなところが特にポイントかと思っております。

「ハートフレンド」につきましては、代表の徳谷委員がおられるので、私からはちょっと申し上げにくいのですが、特にここで一つふれておきたいのが、ピックアップ事業の「金魚すくい大会」なんです。平成17年からされているんです

が、「ハートフレンド」でやってはったんですよね。それが平成25年、昨年度からは桑津地域活動協議会の主催となって「ハートフレンド」は事務局みたいなことになったと。これぞまさにマルチパートナーシップではないかと思います。なかなかこれはない事例やと思います。すばらしい事例だと思います。それが自然に行われているということがすばらしいと思います。

「ハートフレンド」は後ほど徳谷委員に語っていただくということで、すみません。

次、「フェリスモンテ」ですが、こちらは介護保険の事業者であり、地域密着型で有償ボランティアを活用しながら活動されている団体です。ピックアップ事業としては、「おたっしやセンター」ということでヘルパーの派遣をされていると。あと、「おたっしやグループハウス」というので、共同住宅をされております。あと、特にこの3番目の「居酒屋」なんですね、こちらは実際、知的障がいを持つ人で運営する居酒屋を、コミュニティー喫茶を活用して、土曜日に限定して開店して障がい者の方の社会参画とか自立を促すということも目的として、やりがいを持ってなされてるといようなこともされている。地域の中で、誰もが心地よく暮らせるまちを目指してということで、地域の中で最後を迎えていけたらいいなということで、こういった事業をされているというところです。

雑ばくでございますが、以上のような感じです。

○新川会長      ありがとうございました。徳谷さん、何かありますか。

○徳谷委員      ないですけど、開所したのは、本当に子供たちの遊び場づくりから始まって、地域の子育てを自分たちで支え合おうという、ただ、誰かが一方的に支えるんじゃなくてお互いに支え合おう、お互いに成長しようとか、そういう中でやってきているんで。ただ、ものすごく経済的にしんどかったんですよね。4か所も「つどいの広場事業」を受託しているんですが、ほとんど委託事業が半分以上を占めまして、山田先生からも「行き倒れ。そのうち全員で行き倒れるよ」と以前言われたんですけども、その中で何とか自分たちの理念に沿って、何と

か今までみなさんの声を生かして、何とか自分たちも自分たちの施設の家賃が払えるということもあって、自分たちが勉強して、もう思い切って開始したのが児童ディサービスです。2年間かけて準備しました。でも、これは本当にいろんな人に助けってもらって、ほかのNPOさんとかに助けをいただいで始まったんですが、本当に自分たちで家賃が払える、もちろん委託事業からも払ってもらっていますが、自分たちで何とか自立できる一歩につながって、ここへ行き着くまでには、非常に「大阪NPOセンター」さんにお世話になりました。この場を借りてありがとうございました。

○新川会長　はい、どうもありがとうございました。今、お話があったようにそれぞれ事業として何を中心にやってるのか段々見えなくなってくる場所もあるんですが、もう一方ではミッションに応じた、そしてそれをどう実現していくかというような、言ってみれば事業をつくっていくプロセスでそれが広がっていく、そんな事業ドメインのつくり方であって、少し民間企業の事業経営のドメインとはちょっと違うかなと、そんな感じがしました。ただやっぱり、ここは、こういった市民団体の特性みたいなものが一番よく出てくる場所かもしれないとも思っております。それから、この中にも実はテーマ型あるいは地縁型だけではなくて、「釜ヶ崎のまち再生フォーラム」や「榎本地域活動協議会」みたいに実質的に中間支援型の形にもなっている、要するにいろんな団体がブリッジをしていくというようなそんな機能だとか、団体をつなげていくようなそういうブリッジングとかボンディングをやっていくような、そういう機能も持っておられて、この辺はほかの団体も大なり小なり実はそういうことをやって、逆にそれぞれの団体の強みにしておられる。この辺は少し注目をして、これからも聞いておいていただくといいかもしれません。自分のところだけで閉じこもっているときと潰れていたところが、徳谷さんが、ちょっとおっしゃいましたけど、いろんな団体とつながっていったおかげですごく力がつけられたというような、そんなところもあるかもしれないなと思いつつ聞いていました。

ちょっと余計なことを申し上げました。すみません。委員の皆様方からもぜひ、いろいろ聞いてみていただければと思います。ご意見もいただければと思います。どうぞよろしくをお願いします。

○田中宏和委員　　せっかくですから1つだけ、本当に中間報告ということで、ワーキング部会でよく検討していただきましてヒアリングも含めてご尽力いただいたことに敬意を表したいと思います。最終報告に向けてということ言えば、参考資料の12個目の「大阪市市民活動推進に係る新たな提言中間報告」の4ページに、「これからの市民活動の推進と協働のあり方」というのが、これがまさしく大変なとこかなと見てたんですけども、ちょっと簡単に素人目で見ると、いろいろと各地域によって強み、弱みとか、いろんなことが多分地域の中でも、これ地縁型でも多分テーマ型でもいろいろあると思うんですけども、そこをできるだけ最終報告の中で、そういうことも盛り込んだ報告書をつくれたらいいかなというふうには感じるんです。そういう中では、例えば、このワーキング部会がこれからも最終報告に向けて今の体制でできるのかどうかも、一度、せっかくいいものをつくるに当たっては、ちょっと、その辺の検証も含めて早い段階で事務局との中で調整もされてやっていただくのも一つかなというふうに、ちょっと外的な見方で見てしまって申し訳ないんですけど、ちょっと感じた部分だけ。ちょっとすみません。一言だけ。

○新川会長　　ありがとうございました。再検討させていただきます。それでは三原委員、どうぞ。

○三原委員　　ありがとうございました。現状報告ということで、いろいろこういうこともあるんだということを改めて見せていただいて、参考になっております。ちょっとお聞きしたいというか、私の子供のころとかでしたら地藏盆とか各地であって、くじ引きに行ったり、で、そこにいた友達と会ったり、地域の祭りもあって、地域で子供会とかの子供みこしとか、廃品回収をしていたりしたものですから、近所のおばちゃんとかも自然に知り合いになっていたんですけども、

そういうのがちょっと今、希薄になってきてるのかなというので、NPOとか、いろんなところで活動団体が増えてきたのかなというふうに個人的には感じているんです。そんな中、それで役所だけでできることはやっぱり難しいですね。NPOとかでいろいろ支え合っていくのが、今の現状かと思ったんですが、先ほども言っただけのように、つなぎ役というか、つなぐことがあればということで。先ほど「ハートフレンド」さんのおっしゃっていた、ほかの団体も知らない、ほかの団体同士と学び、ほかの団体から学べる場所も多かったということを開きまして、例えば私も友人にNPOとかいろいろ活動している人もいっぱいいるんですけれども。例えば聞く話が京都にもあると思うんですが、大阪にもNPOの人が集まる「大阪を変える100人会議」とか、いろんなNPOが集まって知見を交換する場とかを持ってはるんですけれども。それは私個人的には役所というのは、そういう集まりがつかれるんじゃないかなと。役所が中立になって、NPOとかだったら、やっぱりすごいこだわりを持ってはって、地縁型でもテーマ型でもすごいこだわりを持ってはるから、それぞれの団体に呼びかけると、ちょっとしんどい面もあるのかなと思うんですけど、それこそ役所の方であれば、呼びかけて場だけつくるのであれば、すごい、いいつなぎ役には、役所にしかできないつなぎ役というのがあるんじゃないかなと思ひまして。そういう役所から行くんじゃないで、役所に来てもらう機能というのはないのかなと思ったので、世の中にコミュニティーカフェのコミュニティー喫茶も最近でしたら、みんなが本を持ちよる図書館とかも、いろいろあって、いろんなコミュニティーを形成してると思うので、そこらへんの知見を持ち寄って、それぞれの地域の色が全然違ってくると思うので、「釜ヶ崎のまち再生フォーラム」の毎年の夏祭にはいっぱい結構人も集まりますし、NPOもいろいろ手伝っていますし、そういう何か集まる場があればいいなと思うんですけども、そういうのは役所でしかできないと思うんですが、どうかなと思ひました。

○新川会長      ありがとうございます。どうぞ。

○細井委員　　すいません。立場的に、今日はものすごく発言がしにくいですね。さっきからどうかなと思いつつ一言はちょっと発言しなければ、皆さんに悪いなということで一言だけ言わせていただきたいと思います。

本当にNPOはいろんな形で私のほうも勉強をさせていただいたんですが、まず、1つは最終目的の目標を掲げること、最終こうするんだという、まず、その結束力を持って、そのための団体をつくることです。

次は次世代との連携、じゃ、自分たちの代はよかったけど次にバトンタッチするときはどうするのと言ったときに、必ず次世代の新しい考え方や、例えば地域型なのか、いやいや、そんな事は大阪で考えたい、違うのよ、日本全体だと、グローバルで考えたい、いろんな考えを吸収して、そして最終目的を掲げて結束力を持っていけば民間企業の関わり方と先ほどおっしゃったので、民間企業というのは、いろんなところにチャンスがあれば投資もします。そういったところで自分の企業の名前が売れるとか、これはいいよねと言ったらどんどん投資もしていくでしょう。まず、そういったことも活用すべきだと。その次は行政との連携とおっしゃいましたので、では、行政は何ができるのか、何をしてくれるのか、そういったことは行政とこまめに接触してください。けれども、行政にはやはり大きな法則というのがあるので、それを乗り越えて（視野に入れず）こんな事をしてくださいと言っても、それはだめなんですね。そのあたりの行政の動きを、まず、理解すること。そしてあとは、そのほかにもたくさんのお奉仕団体があります。ビルゲイツのように、えっというお金を寄附される方もいらっしゃいます。でも、何もお金があるから寄附をされたわけではなく、自分の意思でここに金を使っていたきたい、ここにこうしてもらいたい、こういう結果を生み出すから、こうやりたいという大きな理由のもとで財源が動いているので、まず、小さく生まれて大きく育っていきこうと。有償型、無償型、いろんな形があるとは思いますが、できれば有償型にしてあげればお茶のひとつでも飲めるだろうし、また好きなケーキやおかきや、少しはちょっとお腹もふくれたら脳のほうも糖質がとれて

活性化するので、そういった自分たちの最終目標は何なのか。今、やっていることは全員見えてるわけですよ。端から見ても見えているし、この資料を、今日説明していただいてもわかっていると。

でも、その次の答えはどうするんですかというところを見せていかなければ、周りの社会というのは理解しにくいだらうなと思います。企業がやることは、今、やってることは皆やっている。では、この企業と取引しようといったときに何をするかというと、先を見せるんですよ。わが社の未来性を、皆さん示されるんですよ。じゃ、やろうか、と。

そういう観点からも、未来性を示すといったようなことを活用していただいて、これをどうするかという焦点を当てれば、必ず手を挙げる企業、奉仕団体は出てくると思います。そのあたりで結束力を持って陰ながら応援をしていきたいと思えます。

○新川会長　いえいえ、陰じゃなくて、ちゃんと表に出てください。ありがとうございます。それでは江本さんからお願いします。

○江本委員　大阪ガスの江本でございます。幾つかの立場があるので、そこから、まず、三原委員がおっしゃっていた「大阪を変える 100 人会議」。私も携わっていますけども、ここ市役所の正面玄関ホールで 1 回やらせていただいたこともあって、大阪市さんはすごく協力されています。今度 8 月 31 日に我々の本社ビルのほうで、「大阪を変える 100 人会議」オープンフォーラムがあります。で、各区長さんとか、いろいろ来ていただいているんです。さっき徳谷さんもおっしゃっていましたが、本当に、このヒアリングでいろいろほかのところの活動を知るということはすごくいいことだと思いますし、そういった場を「大阪を変える 100 人会議」であったり、区役所単位であったりというのは、ぜひ、やって、この世界はいいことは全部まねをすればいいと思うんですよ。地域ごとに共通の悩みがあれば、本当に全く同じまねをすればいいと思いますし、大阪市以外でも例えば、去年の「CB・CSOアワード」でグランプリをとったのは阪南市の「箱の

浦自治会まちづくり協議会」で、今度、ちょっとお話を聞きに行くんですけど、資料を見せていただく限り、すこぶるうまいことってのはるんですね。そこは大阪市役所の方は怒らないでいただきたいんですけど、要は阪南市役所が何にもしてくれないからというところからスタートして、自分たちで守って自分たちで空き事務所を借りて集会所にしたり、いろんなイベントをしかけたり、新たなコミュニティがつくられているということ、非常にそういったこともまねをして勉強をすればいいと思います。あと細井委員と同じように僕も企業から何ができるかなということはずっと考えているんですけども、なかなか大企業で全てのこういった団体に支援をするということは非常に難しく、どう選ぶかということは難しいんです。その中で、一つ、我々がやっていることで社員を通じて市民活動に援助するということがずっとやっけていまして、「コミュニティギフト」という制度なんですけれども、年間で20件、1件5万円までそれぞれの社員が仕事以外でこういったことに参加しているのがたくさんいるので、それは例えば少年野球のコーチとか、そういったことも含むんですが、そこに社員を通じて寄附をして市民活動に役立てていただいているということをやっています。

で、大阪ガスは来年110周年なんですね、何と。でも、ちょっと再来年の、皆さんご存知かどうかかわからないですけど、電気、ガスの自由化で本当に会社が大きく変わります。本当にすごく変わります。皆さん、思っている以上に変わるので、どうなるかわからないんですけど、少なくとも110周年のときは、そのまま。110周年記念事業と、中途半端なんであまり大したことはしないということなんですけど社会貢献をやっけていこうということで、今、その我々の部署から「コミュニティギフト拡大版」を提案しています。好事例を紹介する、それから実際にお話を聞く、そういった場を設置すればいいかというふうに思います。以上です。

○新川会長　はい、ありがとうございます。どうぞ。

○早瀬会長代理　今、皆さんから言っていただきましたように、まだ行政に対

するヒアリングだとか、企業に対するヒアリングとかはできておらず、今、やっているのは、これらの団体だけです。元来、視野は広くもっているのですけれど、なかなかヒアリングに行く時間がなく、その時間をどう作っていくかが大切なんです。問題意識としてはそういったものをある程度確かにあります。

○新川会長      ありがとうございます。

○石川委員      先ほど、格好つけさせていただきますけど、ワーキング委員なんですけど、やはり非常に時間も限られていまして、取り組める量が非常に限られているのが悩みですね。

ただ、課題は非常に多くありまして、今回、このような形で本当に事務局の方、また、ほかの委員のご尽力ではあるのですが、改めまして先ほど細井委員のほうからも、まずこうビジョンをとということではありますが、これは「office ドーナツ トーク」の田中代表も非常にこう強調していたところではあるんですが。しかし、改めまして企業との協働にしても地域との協働にしても、私は一定の事業力が養えないとそこの段階に行けない。だから地域に言われたら断らないと言えるぐらいの力を持ってないとやはり協働に結びつかないんだと。そこまでいかないと地域とも連携できないですし、また企業ともきちんとビジョンというか貢献の対象として選んでもらうということもできませんし。しかし、ここに至るまでに、やはり大阪市は市民活動の支援を長らくやっているんですけど、なかなかそこに支援していくには、また大きな課題がありますので。やはり小さな団体のほうがよっぽど数が多いですので、こういった団体が希望されるかどうかというふうなところがあります。改めて自分たちの持っているビジョンをもう少し明確な形でたたき上げていくとか、そういったところを支援できるというのは、また大阪市も、各人で求めていますので、そういったものをどういうふうに丁寧に支援していくのかというふうなところの中間支援、ここのあたりではおそらく石田先生がお詳しいのではと思いますが、社協であったり、そういった市民活動支援のいろんな中間支援の動きをされていますが、やはりそこらへんの動きもきちんと見

てもらわなければならないでしょうし、また一定事業できる力量を持った後に、そうしたらどういう展開をしていくのかという、次のビジョンのところもまだまだ至りませんので、少しそういった課題はありつつ、ただ、それをこう検討するには今のワーキング部会の体制ではなかなか限界があるなというふうなところですよ。もしもそこを幅広く、既にそれぞれの活動の中でも検討されている方々も数多くいらっしゃいますので、そういった場が、違う形で何か、こうアイデアが持てればというふうなところは少しワーキング委員の力不足ということで反省もあって少し感じているという次第です。

○新川会長     ありがとうございました。いろいろご意見いただきましたが。

○徳谷委員     先生。

○新川会長     はい、徳谷さん、どうぞ。

○徳谷委員     今、社協さんの話が出ましたので、私たちNPOにとって社協さんの存在というのはすごく大事で、つないでくれてはるんです、現実。今度、東住吉区社会福祉協議会も「ボランティア・市民活動センター」が11月1日オープンを目指して、今、準備を進めていて、どんな形の「ボランティア・市民活動センター」、動くボランティア・市民活動センターにしようよ、みたいな、社協さんを中心に準備委員会をつくっています。私、昨日はちょっと全国社会福祉協議会のシンポジウムに出せていただいたんですけども、社協職員さん、全国から集まっているいろんなことを悩んでるんですね。で、私たちから見た社協さんは、うちの区社協なんかは、うちにすごい迷惑をかけられていて、もう共催や後援事業を山ほど一緒にしていて、今度は区の委託事業を共同体で取りに行ったという。受託2つでしたんですけども。その社協さんから見てNPOさんはどんなふうに見えるのかとか、私は今まで自分から一方的に行ってるので、そういう中間支援の皆さんの違う立場の方からもご意見というのも、もし聞けたらうれしいなと。うちの地域でヒアリングされたら「ハートフレンド」は、多分、めっちゃ困ってる団体やと言われると思うんですけど、ドキドキしながら学校の校長に「どん

なふうなNPOやったら、どういうふうに接してきたら学校に連携しやすいんですか」と聞いたら、いろいろ言うてくれるんですね。その本音をちょっと教頭や校長や担任の先生に聞いたりしているんですけど、そんなことも何か私らも協力するもとで何か見えてきたらNPOを運営する立場の人間としては、めちゃくちゃ参考になるなみたいなことを、すみません、ひとり言のような話で。だからちょっとワーキング部会の委員のみなさんの、今の時間の中では無理なので、もし、よかったら分担をしてそういう社協さんの中のNPOへの見方とか、企業さんからNPOを見て、こんなNPOやったら引き上げたるとか、あったらいいなと思います。

○早瀬会長代理　　そうですね。

○新川会長　　ありがとうございます。はい。

○江本委員　　なかなかどこというのは難しくて。例えばうちが今実践しているのは「NPO法人 Homedoor」のハブチャリのポートで、ガスビルの裏の駐車場ですけれども、もうすぐ2年になります。ちゃんとやっていますし、あれをやるうと決めたのは軒先貢献という非常にわかりやすいコンセプトと、もう一つはお金がかからないということですね。それで社内を説得しまして。最初、もとホームレスの人がやるということで、仮に自転車を借りに行ったら、その辺で寝ているおっちゃんが「はいはい」と言って出てくるのかというふうな誤解をうちの社員は持っていたんですが、そうじゃないという説明をしまして、今のところうまいこといってるというようになっています。やっぱりわかりやすいコンセプトと、やっていることの、先ほど細井さんもおっしゃっていましたが、ま、彼女たちは最終、ホームレスをこの日本からなくそうということで、最終の形をはっきり言っているの、そこに共鳴できたということで、我々が支援しやすいのはそういうことなのかなというふうに思っています。

○石田委員　　社協の立場で言えば、社協というのは同じ名前がついてますけどそれぞれが全く別なんですよね。そうなんですよね。だから「ボランティア・市民

活動センター」というのを 24 区の区社会福祉協議会のうち、今、7つか8つしかできていないんです。だからあとの 15 ぐらいはできていない。だからそれぞれです。で、社協論もあるかもしれないけども、具体像はばらばらだという。さっきリーダーシップと書いてありますけど、そこに誰がおるかということがすごく大事なポイントで、だからその「ボランティア・市民活動センター」にしようと積極的に言うてるところの多くは、社協のプロパーが事務局長になっているところなんです。で、区役所から来た人が、大きな声で言えませんが、どんな意味なのか、行政なのか、「市民と協働しよう」と言うてはるけども、職員を次から次から入替えるとか、ちゃんとルールに乗っからないと動かへんとか、なかなか協働しにくいですよ、行政とは。ふんふんいうたら困ります。

○市民局長 行政の理屈がありますんで。

○早瀬会長代理 そうですよ。最終的には、これは好事例研究会ではないので。そこで、その中で、行政はこういうふうな仕組みをつくったらどうかとか、企業とのバイパスをこうつくったらいいんじゃないかというものが抽出できるよにならないかなと思っています。

それこそ新川先生もよくご存知だと思いますけど、こういういわゆる地縁の組織とテーマ型の組織が連携しながらおもしろく社会をつくっていこうという事例は、注目されているけれど、全国的にもたくさんはないんですよ。だから、こんなふうには大阪市域の中で、そういった視点から、かなり時間かけて調べてきた・・・と言っても、まだ数か月ですけども。

というのはほかの地域では余りやってないという点では、おもしろい取組だろうとは思っているんですけども、いかんせん能力がないので、そこは、すみません。

○新川会長 いかがでしょうか。進捗報告で大分盛り上がりしましたが、ご報告ということで、ここはこれくらいにさせていただいて、今、進捗状況報告をいただいたものを、そして、それについて各委員からそれぞれご意見、あるいはご感

想、またご質問いただいたところなどを踏まえて次の作業に進ませていただきたいと思います。

やっぱり、これだけ7つの団体を見ていただいただけでも、いろんな課題があるなということがよくわかりました。したがって、第一にこれから私たちひとつ気をつけてやらないといけないのは、もう少し大変ですけどエリアやテーマや論点や、あるいはレベルやといったものを少し整理した形で調査の対象を広げていくことです。何もかもはできませんので、そこは少し整理をした上で、調査をしていくということをやらないといけないなというふうに思いました。一般的に、よく産官学民というような言い方をしますが、かなり幅広くフィールドを捉えて、特に今回の地域に一応一定の目線を置いた、そういう調査をしてきていただいたわけですが、この7つの団体の中でも実はかなり幅広くいろんな種類のステークホルダーが関わってきておられる。で、その中には地域だけに限らずオール大阪、あるいは大阪を越えて活動しておられるようなところもあります。そうしたところもしっかりとこの地域に関わってくださっているというところがあって、こういうところのいろんな力を合わせていくような仕組みを私たちは考えていかないといけない。なので、多少、ここは全部はできませんけれども、少し調査の対象をかなり整理をした形で幅広く選びながら、ピンポイントになるかもしれませんが、もうちょっとこの調査を充実させていく必要があるかというふうに思っております。

それから、大事な2つ目はやっぱりここでの議論の方向づけということはどういうふうにしていくのかということについて、これは来年に向けて私どもの提言の課題にもなるわけですが、基本的には今日幾つか出ましたけれど、一番ベースのところでは、こうした地縁の団体もあり、それからNPOもあり、あるいは地域で活動している法人形式その他問わず、そこでいろんな活動をしておられる方々が本当に力をつけて、そして、ほかの団体や地域の方からの声に答えていける、そんならやりましょうかという話になるかどうか、そういうところまで

力をつけてもらうような、そういうところは少し改めて考えていかないといけないというふうに今日思いながらお話を聞いていました。そのときにその力をつけるために、これは皆さん方からもいろいろありましたけれど、目的だとかミッションだとか、あるいは活動のきっかけだとか、そういうものをどうつくっていくのか、このあたりを私たちとしても、もう一度整理をして考えていく必要があるなということが大きな方向づけの2つ目としてはあると思いました。

それから3つ目にやっぱり、そういう活動が一定できあがったところで、単一の団体でできないことや、自分たちのところだけでは、行き詰まってしまうところを、ほかの団体の力でまた、一緒にやることでどんどん広がっていく、広げていく、大きな成果が出ていくという、そういう姿も同時に見せていただきました。そういう連携とか協働とかというところの方向づけというのは、これはやっぱりやっていかないといけないということで、この辺を一応、私どもの今後、調査をしていくときにも意識的にやっていかないといけないなということで、ぜひ、考えていきたいというふうに思っております。

現実にはなかなかいずれも難しいところが多いのですが、市民がそういうまづ力をつける、そして活動の方向づけを考えていく、そして協働や連携といったことを考えていく、そんなところを比較的、意識をしながら、これ以外にもいろいろ出てくるとは思いますけれども、まずは調査をしっかりやっていくということにしたいと思っております。

合わせて、そういうことをやろうとすると今の早瀬会長代理にお願いしているこの部会メンバーだけではちょっと大変かなということがありますので、ここは改めまして、事務局と相談をさせていただいて、また、ワーキング部会の部会長をやっている早瀬さんとも相談をさせていただいて、少し人員体制、それから、調査プランを含めて再検討させていただくという、ここは恐縮ですが、私、会長にお任せいただければというふうに思っておりますので、よろしく願いをしたいと思っております。

今日のところは中間というか進捗状況の報告ということですので、最終提言に向けての今後の方向について皆様方からご意見をいただいたということです。今のような現状での取りまとめということでお許しをいただければと思いますが、よろしゅうございますでしょうか。

ありがとうございました。

それでは本日のこの議題、「ワーキング部会からの報告」ということについては、以上にさせていただきたいというふうに思います。で、これを踏まえて、少し今後のスケジュールということについても考えなければならないのですが、今後の進め方ということについては、事務局のほうで少しご説明をいただければというふうに思います。よろしく願いをいたします。

○市民局市民活動担当課長　では、今後のスケジュールにつきまして説明させていただきます。「資料5」のほうをご覧ください。「市民活動推進審議会及びワーキング部会の進め方について」という資料になっております。

こちらのほう、上段の進め方の部分は、これまでの審議会及びワーキング部会の取組のほうになります。

左側のほうがワーキング部会の動きで、右側のほうが審議会の動きになっておりまして、で、前回の審議会から、平成26年3月から7月にかけてはワーキング部会を予定よりも1回増やしてやっております。しかも、これ以外に活動事例の調査も先生方に何回も出向いていただいたような状況でございます。で、8月5日、第22回審議会ということで、もうこの8月からワーキング部会のほうでは調査の予定も入れていくところなんですけども、8月から11月にかけてワーキング部会を3回はやっていきまして、次に12月に審議会のほうで方針の概要案のほうを出させていただけたらなど。ワーキング部会でまた平成27年1月から2月にかけて方針の素案の検討を行い、3月に方針の素案を審議会のほうに出させていたくと。その方針案をさらにワーキング部会で検討して、6月に方針案の確定を審議会のほうでしていただくような形で、事例調査及び議論にもっと時間

をかけて掘り下げて行くような形にさせていただけたらと思います。で、その後、区長会議への報告なり、審議会による方針等のパブリックコメントなどを行いまして、提言を平成 27 年 10 月にしていきたいなというようなスケジュールで考えております。よろしくをお願いします。

○新川会長　　ということで、当初考えておりましたより、大分、半年くらいは。

○早瀬会長代理　　3 か月遅れです。

○新川会長　　3 か月ぐらい、少し余裕ができたというか、ちょっと作業が大変  
というか、理由はいろいろありそうですが、こういう予定で、事務局では今考え  
ておられるということでございます。先ほど申し上げましたように、いろんな新  
たな調査や、あるいは方針の検討課題等出てまいりましたので、実際にタイムス  
ケジュールはこういうふうにかなり余裕を持った形で事務局のほうでつくってい  
ただきました。同時に組織体制のほうも少し見直しながら進めざるを得ないか  
なというふうには思っています。このあたりはまたちょっと事務局とご相談をさ  
せていただきたいと思います。このあたりはまたちょっと事務局とご相談をさ  
せていただきたいと思います。大まかな流れはこういう流れなのですが、  
何か各委員からご質問だとか、あるいはこうせいという話がございましたら願  
いをお願いします。

なお、私どもの任期は来年の 11 月まででしたっけ。

○早瀬会長代理　　そうです。

○市民局市民活動担当課長　　来年 11 月 3 日までになります。名簿の上のところに  
任期のほうを書かせてもらっております。ですので、任期ぎりぎりまでには出  
せるような形にはなっています。

○早瀬会長代理　　任期中に仕上げるということです。

○新川会長　　何とか任期中には仕上げたいと思っております。前は途中から引  
き継いだ形になってはいますが、今度は、ちゃんとやりましょうということで、  
ぜひ来年秋ぐらいまでには皆さんと一緒にいきたいと思っております。  
何かご質問とかご意見とかございましたら。

いいですか。それではスケジュールにつきましては、こういう進め方ということで、お願いします。ただ、実際の組織体制等々は、ちょっと考えさせていただきませんが、また各委員にはいろいろとお願いをすることがあるかと思いますが、その際には嫌々をせずによろしくご協力のほどお願いをしたいというふうに思っております。よろしくお願ひいたします。

これで大体、審議事項は終わったのですが、「(3) その他」というのがございますが、事務局、何かございますでしょうか。

特にありませんか。

それでは本日本日予定をしておりました審議については以上で無事に終わらせていただきましたが、もし委員の皆様方からこれを言い忘れたとか、せっかく来たんだから、これだけは言っておかねばとか、ここだけはちゃんとけちをつけておかないとというような話がございましたらお願いします。言わないと心残りもあるかもしれませんので。大丈夫ですか。よろしいでしょうか。余計なことを申しおりましたが、皆様方のおかげで、全ての議題を何とか終わらせていただきました。隣で早瀬会長代理ワーキングリーダーがため息をついております。やたらにお仕事ばかり増えたという、そういうため息だと思っておりますが、大いに頑張っていたきたいというふうに思っております。

それでは以上を持ちまして、第22回の市民活動推進審議会、閉じたいと思いません。どうも皆様、御苦勞さまでした。事務局の皆さん、本当にありがとうございました。

○市民活動担当課長代理 新川会長、ありがとうございました。次回の審議会は、ただいまご承認いただきました日程で12月の開催予定となっております。後日、改めまして日程の調整をいただきますので、ご協力のほうよろしくお願ひいたします。お手元にあります黄色いファイル、それはそのままその場に置いてお帰りください。本日は長時間にわたり、ご審議いただきましてありがとうございました。

閉会 午後 4 時 50 分